

コウイカ（東京湾）



- 千葉県沿岸では、主に東京湾内湾南部～内房北部で小型機船底びき網により漁獲される。
- 東京湾における産卵期は春季で、アマモ類や海藻類などに産卵する。
- 寿命は約1年で、産卵後に死亡するため、夏季にはほとんど漁獲がみられなくなる。

資源評価

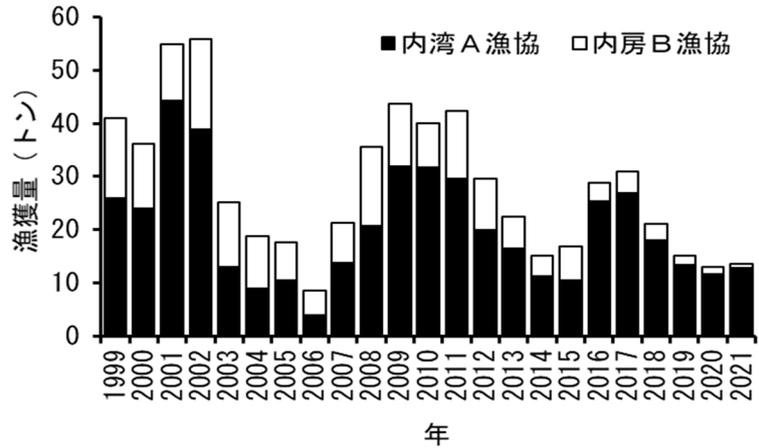
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



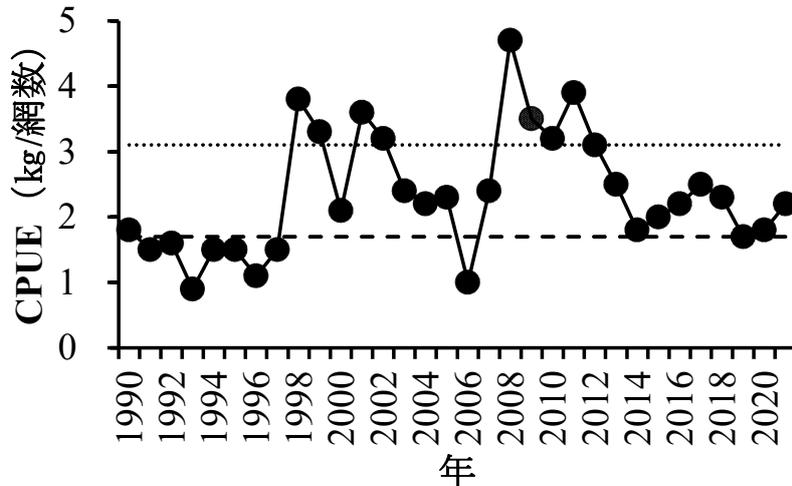
東京湾の主要2漁協におけるコウイカ漁獲量（千葉県調べ）

東京湾の主要2漁協におけるコウイカ漁獲量は、1999年以降増減を繰り返し、近年では2017年に31トンとなった後、減少傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値 (CPUE) から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計した CPUE (1網当たりの漁獲量) で判断した。
- 2021年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばいとなった。



小型機船底びき網の標本漁船によるコウイカの1網当たり漁獲量 (kg/網数; CPUE) の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は8~12隻

資源管理の取り組み

- 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コウイカ以外の魚種も含めて、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1996年から漁業者による産卵床の設置が行われている。